

東峰村「日本で最も美しい村」

小さくてもオンリーワン

NPO法人「日本で最も美しい村」連合をご存知でしょうか。

これは1982年にフランスで始まったもので、失ったら二度と取り戻せない農山漁村の景観・文化を守りつつ、最も美しい村としての自立、つまり地産地消を目指したものです。日本でもこの理念に共感した気運が高まる中、自然と人間の営みが長い年月をかけて作り上げた本当に美しい日本を未来に残したい、小さくてもオンリーワンの輝きを持つ日本の美しいを基本理念に、2005年に7つの町村が「日本で最も美しい村」を組織し、活動がスタートしました。



東峰村の美しい「竹の棚田」の風景

現在、60町村が加盟するこの連合に、2012年10月に49番目に加盟したのが、福岡県朝倉郡にある東峰村です。

美しい命の水

東峰村は福岡県中央部東端に位置し、平成17年3月に個性の違う2つの村（旧小石原村及び旧宝珠山村）が合併して生まれました。合併後の人口が3,000人に満たない、当時、日本で一番小さな合併として注目された村です。

旧小石原村は、日常の器を作り「用の美」を追求してきた小石原焼や福岡黒田藩の御用窯であった高取焼が同居し、約50の窯元があるものづくりの地域、旧宝珠山村は、田園風景が広がる観光資源に恵まれたグリーンツーリズム活動の盛んな地域です。

総面積（51.93km²）の86%を山林原野が占める中山間地域の村には、手つかずの自然に恵まれた幾多の観光資源や風習、自然を守ろうという意識が強く残っています。

村では、「自然環境保全条例」（現在及び将来にわたり自然と人間の共存する緑豊かな生活環境を保全し、もって村民の健康を保持し、村民の福祉の増進に寄与することを目的とする）や、「河川をきれいにする条例」（河川の浄化並びに環境の保全及び美化を図ることにより、水と緑豊かな美しい村づくりを目指すことを目的とする）などを制定し、村の環境美化に努めています。村から流れ出す美しい水は、

やがて筑後川となり、福岡県民や佐賀県民の「命の水」となります。福岡県や佐賀県の水瓶である江川ダムや平成31年の完成に向けて建設が進む小石原川ダムに蓄えられる水も、東峰村から流れ出す水です。



天日干しの様子



宝珠山川の清流に乱舞するホタル

未来に残す取り組み

村では、自然エネルギーへの取組みも盛んで、太陽光発電やバイオマスエネルギーの利用を手掛けており、とりわけ、後者については、間伐材の利用促進や非化石燃料を用いることで地球温暖化対策に貢献する木質ペレットストーブを導入し、その普及に努めています。

また、350年の歴史を持つ陶器作りは、民陶（生活の中に使われる陶器）として、釉薬づくりや成形に欠かせない水を存分に利用する伝統技法を受け継ぎつつ、新たな作風を生みだす努力もしながら脈々と活きついています。

「日本で最も美しい村」の名がふさわしいこの村では今、村の資源を生かした洗練された施設のデザインとともに村全体の活性化を目指す『水源の森交流館（仮称）基本構想』を進めています。これは、旧小石原小学校を、1階は人々が集まり多様な活動を行う賑やかな空間に、2階は様々なスキルを持つ人たちが集まり静かに仕事ができる作業空間に改装し、住民・観光客・シェアオフィス利用者が交流出来る賑わいの空間を創出することで、村が抱える様々な問題解決に向け、取り組んでいこうとするものです。

この「水源の森交流館（仮称）」には、全国からSNSなどを通じて知恵をお借りし、東峰村で生まれたたくさんのアイデアや技術を、筑後川の水源地の一つである東峰村から全国へ発信するという大きな役割があります。

この恵まれた自然、特に水を守り続け「日本で最も美しい村」に選ばれたという事に誇りを持ち、この東峰村を未来に残していきたいと思えます。

みなさまのお越しをお待ちしております。



木質ペレットストーブ



旧小石原小学校